

「一つの御霊、一つのからだ」

(1コリント 12:12~27)

1. 12:11 「御霊は、みこころのままに、一人ひとりそれぞれに賜物を分け与えてくださるのです。」を受けて
2. その理由(12-14)
 - (1) キリストの(からだである教会)が、そうであるように(12)
 - ① からだが一つでありつつ、多くの部分があるように
 - ② からだに多くの部分がありつつ、一つのからだであるように
 - (2) 一つの御霊によってバプテスマを受けたので(13a)
 - ① ユダヤ人/ギリシャ人、奴隷・自由人
 - ② 身分・立場を超えて
 - (3) 一つの御霊を飲んだので(13b)
 - (4) からだは一つの部分からではなく、多くの部分から成っている(14)
3. 具体例(15-24)
 - (1) 足と手、耳と目(15-16)
 - (2) からだ全体と各器官(部分)(17-20)
 - ① からだ全体が、目・耳であったら(17)
 - ② 現実①(18) 神が御心に従って、体の中に各々の部分を備えられた。
 - ③ からだ全体が、一つの部分(器官)であったら(19)
 - ④ 現実②(20) 部分(器官)は多くあり、からだは一つである。
 - (3) 目と手、頭と足(21) *「必要でない」
 - (4) なくてはならないものがある(22-24a)
 - ① 弱く見える部分(22)
 - ② 見栄えが悪い部分・見苦しい部分(23)
 - ③ 格好の良い部分(24a)
 - (5) 神の調和(24b)
4. 目的・ゴール(25-26)
 - (1) からだの中に分裂がなく、互いに配慮するため(25)
 - (2) 共に苦しみ、共に喜ぶため(26)
5. 宣言(27)

「あなたがたはキリストのからだであって、一人ひとりはその部分」